

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業

実 施 報 告 書

プログラム名	東北教職高度化プラットフォーム会議による教員資質向上のための協働モデルプログラム
プログラムの特徴	独立行政法人教職員支援機構と「東北教職高度化プラットフォーム会議」の連携関係を基に、東北地区の教職大学院と教育委員会が協働し、ミドルリーダー教員の資質向上プログラムを作成し実施する。具体的には以下の四観点をとりいれる。 東北地区各教職大学院と六県教育長とによる教員育成指標に関する協議による協働の基盤づくり（目指すべき教員像についての共通理解） 教員育成指標を踏まえた、管理職直前世代の学びの成果としての人材育成モデルプラン提案 独立行政法人教員研修センター「組織マネジメント指導者養成研修」の単位化を基としたミドルリーダーのための学校マネジメント力向上モデルカリキュラム開発 東北地区教職大学院学生のネットワーク強化モデルプラン提案

平成 30 年 3 月

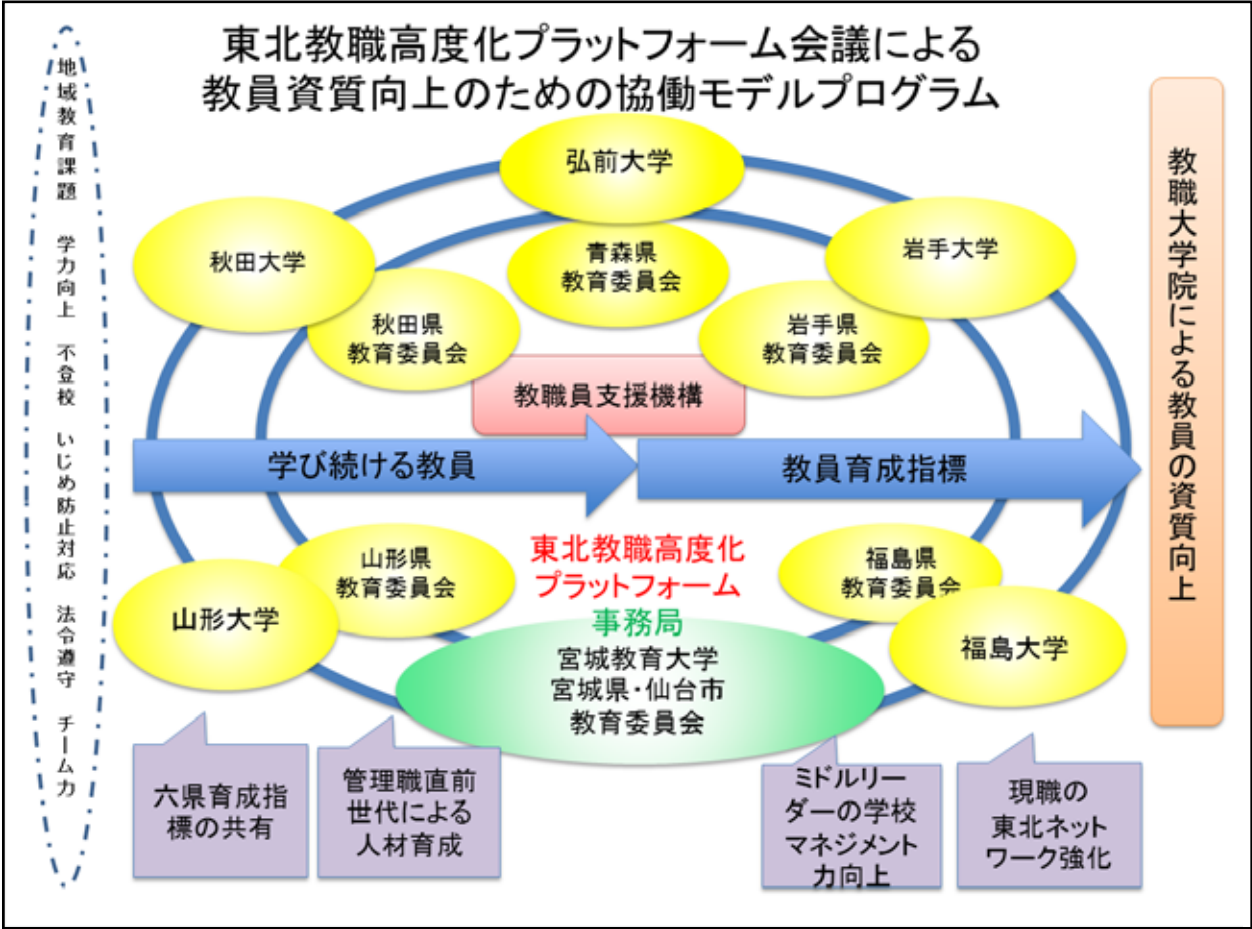
機関名 国立大学法人宮城教育大学教育学研究科高度教育実践専攻

連携先 宮城県教育委員会

プログラムの全体概要

各教育委員会の研修実施の参考例となると思われる開発成果を

中心に、プログラムの全体概要をポンチ絵等でまとめてください。



開発の目的・方法・組織

1 開発目的と背景

東北地区国立六大学の学長で構成される「東北教職高度化プラットフォーム会議」は平成28年6月2日に独立行政法人教員研修センターと連携協定を締結した。それを基として「組織マネジメント指導者養成研修」に弘前大学・秋田大学・宮城教育大学の各教職大学院・東北六県の教育委員会(指導主事等)が参加し、教職大学院生が東北地区のネットワークを全国的なものへと発展させながら学ぶこととなった。参加院生の満足度は極めて高く、学びの自主サークルが立ち上がる等、学び続けることの高い動機づけとなっている。

とりわけ東北地区の各学校・教員においては、少子高齢化の加速度的進行と東日本大震災による子どもの心的物的ダメージについて、協働的な対応を必要としている。減災という点においても上記のような試みを一例として、東北地区の各教職大学院と教育委員会が教員の資質向上において協働していくことは社会的要請であると言える。

平成28年1月28日に宮城教育大学を会場として開催された、「教職大学院パワーアップフォーラム at東北教職高度化プラットフォーム会議」では、パネラーである、秋田県の教育長、宮城県の教育長から教職大学院の学びを介した、学び続ける教員としての資質向上に高い期待が示された。教員政策の解説者として登壇した文部科学省初等中等教育局教職員課佐藤光次郎課長、独立行政法人教員研修センター高岡信也理事長においても教員の養成・研修の有機化を実際に実現していくことの必要性が改めて示された。

以上のような背景と趣旨から、子どもの成長を保障する学校組織の中心となる、東北地区教員としての資質向上のためのプログラム開発について協働を鍵概念として行う。

2 開発の方法

独立行政法人教職員支援機構と「東北教職高度化プラットフォーム会議」の連携関係を基に、東北地区の教職大学院と教育委員会が協働し、ミドルリーダー教員を中心とする資質向上プログラムを作成し実施する。ミドルリーダーの生涯にわたる資質向上という点において、四つの面からプログラムを構成する。

六県教員育成指標と課題の共有：東北地区各教職大学院と六県教育長とによる教員育成指標に関する協議により目指すべき教員像について共通理解を図り、協働の基盤を作る。

管理職直前世代の学びの成果を踏まえた人材育成プラン

ミドルリーダーのための学校マネジメント力向上：独立行政法人教員研修センター「組織マネジメント指導者養成研修」の単位化を基としたモデルカリキュラムを開発する。

東北地区教職大学院学生(現職院生)のネットワークの強化

3 開発組織

No	所属・職名	氏 名	担当・役割	備 考
	宮城県教育委員会			

教職員課長	山本 剛	研修開発・評価改善	
教職員課免許研修班主幹	吉田 光輝	研修開発・評価改善	
塩竈市教育委員会学校教育課課長	遠山 勝治	研修指導・評価改善	元主任指導主事
亘理町立荒浜中学校教頭	山尾 健一	研修指導・評価改善	元主任指導主事
宮城教育大学教職大学院			
教授（学長特別補佐教職大学院担当）	田幡 憲一	教職大学院カリキュラム化の検討	
教授（学長特別補佐COC事業担当）	村上 由則	教職大学院カリキュラム化の検討	
教授（学長特別補佐東北教職高度化プラットフォーム会議担当）	本図 愛実	研修開発・実施・全体調整	
教授	梨本 雄太郎	研修開発・実施・評価改善	
准教授	我妻 良行	研修開発・実施・評価改善	
准教授	小澤 晃	研修開発・実施・評価改善	
准教授	大沼 あゆみ	研修開発・実施・評価改善	
特任准教授	菊池 均	研修開発・実施・評価改善	
特任教授(学長付)	藤代 正倫	研修開発・実施・評価改善	
宮城教育大学学長室 室長	松本 仁一	教員研修センター・六大学・六 県教育委員会との連絡調整	

開発の実際とその成果

1 管理職直前世代のための資質向上講座

○研修の背景やねらい（ねらいについては、明確に記述）

青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県の六県教育長と、「東北教職高度化プラットフォーム会議」に属する弘前大学、秋田大学、岩手大学、山形大学、福島大学、宮城教育大学の教職大学院により、各県の教員育成指標により示されている教員の資質と指標達成のための方策について情報交換を行い、目指すべき学校・教員像について共通理解を図る。これらを基に教職大学院で学ぶ管理職直前世代について、人材育成能力および協働的な学校づくりのための学校運営能力の向上モデルプランを作成し、教育経営実践研究A・B（教職大学院授業科目名）として試行する。

○対象、人数、期間、会場、日程、講師

対象：現職2名

会場：宮城教育大学 文部科学省 宮城県庁 利府町教育委員会 丸森町教育委員会等

講師：田幡憲一 本図愛実 我妻良行 小澤晃 菊池均

日程：下図のとおり

○各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

年間100日程度を目安に、中央・地方の行政組織、民間企業等における参与観察の場を設け人材育成の在り方を検討した。学修の成果を平成30年1月23日、宮城県教育長に提案として発表を行うこととした。

教職大学院教員からだけでなく、独立行政法人教員研修センターの主任指導主事として宮城県から派遣され、現在宮城県の行政・学校の管理職となっている方々からも指導を受け、行政と学校の実態を踏まえた、効果的・効率的なプラン作成を目指した。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数 【表1】

教育経営実践研究A、B進行日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
教育経営実践研究A	3日 県教委 【教職員 研修会 開校記念式 功労者表彰 式】	11日～24 日(29) 文部科学省 【(中)部 教育政策 財政課 課長室】		28日 県教委 【教職員 研修会 開校記念式 功労者表彰 式】	7日 県教委 【生涯学習 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	26日 県教委 【教育企画 課】 学び土台づく り研究会	21～24日 利府町教委 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	1、4、5 日 九森町教委 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	3日 利府町教委 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	17日 県教委 【生涯学習 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	18日 県教委 【生涯学習 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	7日 県教委 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会
	19日 利府町教委 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会				10日 県教委 【生涯学習 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	29日 県教委 【生涯学習 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	21日 利府町教委 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	5日 利府町教委 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	13日 県教委 【生涯学習 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会			18日 県教委 【生涯学習 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会
教育経営実践研究B	5日 附属中学校 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	19日 附属中学校 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	24日 附属中学校 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	30日 白石高校 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会			2日 仙谷二華 中高 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	16、17日 七十七銀行 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	10月20、31日 みやぎのICT 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	12月12日 みやぎのICT 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	提言プロト コル 作成 総まとめ	
	11日 附属小学校 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	20日 附属小学校 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会	30日 附属小学校 【教育企画 課】 協賛教育 コーディネ ーター 研修会									
現任校教員シャドウイング(月々2～3回)・ヒアリング												
管理職経験 教職大学院教員ヒアリング												
23日 教育長 への 発表												
教育経営実践研究A												
教育経営実践研究B												
私立大学												
*色別にした実習テーマごとに事務・事後指導あり。												
高槻教育大学・現任校												

(* 同表は巻末添付資料として再掲)

○実施上の留意事項

宮城県教育委員会と進行のための「連絡会」を組織し、円滑な連絡調整を行うようにした。

○研修の評価方法、評価結果

協力機関に評価アンケートを行い、本研究会で解析を行った。管理職直前世代の学びとして効果的であり、来年度の授業としての本実施が確認された。教育長提案のための準備と実施を通して、宮城県教育委員会教職員課ともプログラムの有効性について具体的に協議した。個々の学生の成長については、引率教員の前案を基に、教職大学院実習部会においても評価・検討を行った。

○研修実施上の課題

実習機関より、2

名以上になった場合は受入れが難しい場合という声もあった。人数増の場合には代替機関を検討しなければならない。また指導体制の構成についても再検討していく必要がある。

2 管理職直前世代の学びの成果を踏まえた人材育成プラン～学校危機管理編

○研修の背景やねらい（ねらいについては、明確に記述）

教職大学院で学ぶ管理職直前世代により、学校危機管理に焦点をあて校内人材育成モデルプランを次表のように作成した。モデルプランの一部としていじめ未然防止に重点を置く研修プランを開発した。【表2】

各月で注意すべきリスク・トラブル												
※様々なデータから各月の特徴的なリスク・トラブルをまとめたものです。年間通して危機意識をもっていきましょう。												
スポーツ振興センターでの事故が多い月			種別別リスク			学校によって時期が異なる			高校・中学校		小学校	
分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習活動の事故	施設・設備	廊下	廊下	プール	プール	新入大会	学習発表会					施設・設備
休憩時間の事故		廊下・校外学習				体育祭・運動会	施設・設備					
登下校の事件・事故	登下校事故		不審者				不審者			登下校事故	登下校事故	
問題行動	学級づくり			問題行動		問題行動			問題行動	問題行動		
				無法行為	無法行為				無法行為	無法行為		
	登校しずみ	いじめ	いじめ				いじめ	いじめ				
	不登校	不登校				不登校				不登校		
健康				食中毒	食中毒	食中毒			インフルエンザ	インフルエンザ	インフルエンザ	インフルエンザ
災害			地震		地震	大雨				雪	雪	
教職員		メンタル				メンタル			教員運動			
「おさえておきたい」トラブル・リスクの要因	4月は、 学校のリズムや登校などに適応できないために起こるリスク・トラブルが特徴的です。 引き継ぎ事項を確認し、検討した内容を共有しておくことが重要なポイントです。			7・8・9月は 夏休みがあり、学校から離れることから起こる問題行動が特徴的です。更に休み明けは不登校が起こりやすくなります。 また、気象状況により、暑さや風水害に関連するトラブル・リスクに注意が必要です。 休み前のケアと休み明けのケア、継続した指導・支援が回復のカギとなります。 また、体育の行事もケガや体調管理等に注意です。			10・11月は 多くの学校で行事があり、その活動における生徒間のトラブルが起こります。適切な対応をすることで人権関係づくりのチャンスになりますが、いじめや不登校につながることもあり要注意です。 12月にかけて 成績の整理等を作成しなければならぬ時期になります。情報管理に要注意です。 また、感染症の流行の時期です。健康管理や生徒の行動制限も注意のポイントになります。			1・2・3月は、 気象状況により、凍結や大雪に関連した事故に要注意です。 また、引き継ぎ事項に対する健康管理がポイントです。 休みや年末年始もあり、生活のリズムの崩れや外傷との接点の機会が多くなり、無法行為などの問題行動が起こりやすい時期です。		
	5・6月は、 学校生活への慣れから起こる、人権関係が表面化しやすい時期から起こる。また、体育の行事が多いことから起こるリスク・トラブルが特徴的です。											

（* 同表は巻末添付資料として再掲）

○対象、人数、期間、会場、日程、講師

対象：ミドル層教員 100 名

会場：宮城県総合教育センター

講師：我妻良行 小澤晃 菊池均 久保順也 本図愛実

日程：平成 29 年 10 月 2 日

○各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

法令と心理についての理解について講義形式で学んだ後、ワークショップにより、自校対応について考える。講義とワークショップにそれぞれ 2 時間を充てた。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数

回	時間	講義・演習等の内容	進行
	9:40	開会行事 諸連絡・午後分科会会場など	我妻 良行

1	9:50 10:50	< 講義 1 > 「教育課題に関する組織的対応・理論研究 - いじめ防止 対策推進法を踏まえて」	本図 愛実
2	11:00 12:30	< 講義 2 > 「教育課題に関する組織的対応・理論研究 - 発達障害に ついての理解を踏まえて」 G S 宮城教育大学 久保 順也准教授	本図 愛実
		休憩・昼食（1階ラウンジ，3階ラウンジ）	
3 4	13:30 16:00	< 事例研究 > 「教育課題に関する組織的対応・実践研究」 第1分科会 第3研修室 教職大学院 特任准教授 菊池 均 第2分科会 第4研修室 教職大学院 准教授 小澤 晃 第3分科会 第8研修室 教職大学院 准教授 我妻 良行 第4分科会 第9研修室 教職大学院 特任教授 藤代 正倫 第5分科会 第10研修室 教職大学院 教 授 本図 愛実	
	16:00	* 会場復元・撤収作業	

○実施上の留意事項

受講者の所属校（小中学校、高等学校、特別支援学校）の特性に応じて、学習内容が活用できるように留意が必要である。講義において各学校の特性を踏まえた具体例に触れるなどし、ワークショップのグループ分けは同じ学校種、分科会は異校種が含まれるようにするなど、情報共有と考察が多面的に展開できるようにした。

○研修の評価方法、評価結果

受講者アンケートを行い、受講者から高い評価をえた。しかし、宮城県総合教育センターの担当課と協議し、受講後の追跡調査等が必要であることなどを問題意識として共有し、今後研修成果の活用や発展についての支援方法を継続的に検討していくこととした。

○研修実施上の課題

教職大学院修了生の継続的な資質向上を本講座とどのように関連させていくか、教育委員会とさらに協議していく必要がある。

3 ミドルリーダーのための学校マネジメント力向上モデルカリキュラム開発

○研修の背景やねらい（ねらいについては、明確に記述）

「東北教職高度化プラットフォーム会議」に属する各教職大学院が「組織マネジメント指導者養成研修」に参加し、それらをフィールドワークとしつつ、大学院授業として単位化する。学校マネジメントについて標準性の高い知識を獲得しつつ、各学生が属するそれぞれの文脈において適用し、評価・分析できる資質と態度を涵養する。

○対象、人数、期間、会場、日程、講師

対象：現職 30 名

会場：宮城教育大学 独立行政法人教職員支援機構

講師：田幡憲一 大沼あゆみ 梨本雄太郎 我妻良行 小澤晃 菊池均 藤代正倫 本図愛実

日程：平成 29 年 6 月 19 日、9 月 3 日～9 月 8 日、11 月 27 日

- 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

フィールドワークとしての受講日ごとの振り返り学習、受講内容とこれまでの大学院での学びを連動させる学習、受講内容と学校の具体的な課題解決を連動させる学習といった省察を丁寧に行い、自校化がイメージできるようにする。

- 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数

回	日時	主 な 内 容
1	6月19日 3・4時限	・授業ガイダンス ・研修の技法と支援機構での学び（ゲストスピーカー 堀内瑞先生）
2	9月3日 12:00 17:30	・ 正門集合・出発 ・ フィールドワークガイダンス（終了後、参加者情報交換会）
3	9月4日 9:00 9:30 13:00 13:15 17:30	・ 「組織マネジメント指導者養成研修」受付 ・ オリエンテーション，開講式，講義 ・ リフレクションA（健康状態の確認，諸連絡等） ・ 講義 ・ リフレクションB（研修の振り返り）
4 ～ 5	9月5～6日 8:30 13:00 13:15 17:30	・ ミーティング，講義 ・ リフレクションA（日によって時間の変更あり） ・ 講義 ・ リフレクションB
6	9月7日 8:30 13:00 13:15 15:00 15:30 20:00	・ ミーティング，講義 ・ リフレクションA ・ 講義 ・ 閉講式 ・ 教職員支援機構出発 ・ 宮城教育大学着
7	11月19日 4時限	・大学での振り返り ・「組織マネジメント指導者養成研修」の学びを活用した組織の課題解決

- 実施上の留意事項

フィールドワークには毎日2名の教員が引率し、心身の安全に注意する。リフレクションシートを準備し、毎日のフィールドワークについて考察を促し、フィールドワーク後提出を求める。

- 研修の評価方法、評価結果

受講から得難い学習ができ、全国的な情報の収集と人的つながりができたと好評を得た。フィ

ールドワークの成果を自校の組織解決に活かすという授業の目的においても質の高い検討が行われた。下図は受講者がチームにより作成した、成果発表会の資料の一部である。



○ 研修実施上の課題

遠距離の移動が含まれるため、安全・健康面に引き続き注意していく必要がある。

4 東北地区教職大学院学生のネットワーク強化モデルプラン講座

○ 研修の背景やねらい (ねらいについては、明確に記述)

東北6県教職大学院の学生の交流を通じて切磋琢磨の雰囲気や東北地区の教職大学院に醸成し、東北地区の教育を担う教員(含: 予定者)同士が「学び続ける教員」として交流し、県を超えた協力関係の礎石とする。加えて、附属校園と協働することにより、中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」(H27.12.21)具現化のための取組として位置付ける。

○ 対象、人数、期間、会場、日程、講師

対象：東北地区教職大学院学生 100 名

会場：宮城教育大学附属小学校

講師：各教職大学院スタッフ

日程：平成 30 年 3 月 9 日

○ 各研修項目の配置の考え方(何をどの程度配置すべきと考えたか)

教科ごとにチームを作り、本番に向けての授業づくりや模擬授業を行うとともに、分科会(事後検討会)の持ち方について検討する。教科経営力向上を目指し、現職学生が指導を行う場面を確保する。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数

[当日の進行]

- 11:00 集合
・準備 ・昼食
- 13:00 開会行事（多目的教室2）
・学長挨拶 ・会場校挨拶 ・緒連絡
- 13:30 各教職大学院代表者による提案授業（3・4・5年生）
・提案授業（5校時 13:30～14:15）
・提案授業（6校時 14:20～15:05）
- 15:15 分科会（多目的教室1・2，理科室1・2，図工室2）
各分科会は各大学の方法で行う
- 16:30 閉会行事
・大学挨拶 ・諸連絡
- 17:30 分科会（宮城教育大学萩朋会館2階）
～19:00 ・開会の挨拶（大学）
・分科会報告（院生） ・各大学から（各大学の先生）

[授業提案と分科会について]

- 宮城教育大学 2コマ（5年3組：理科，5年2組：外国語）
- 秋田大学 2コマ（5年4組：国語，4年1組：社会）
- 山形大学 2コマ（3年4組：算数，5年1組：算数）
- 福島大学 1コマ（3年2組：国語）
- 弘前大学 2コマ（4年3組：算数，3年3組：外国語活動）
- 常葉大学 1コマ（4年4組：国語）

[授業の割り振りと授業会場]

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 授業 5校時（13:30～14:15）<ul style="list-style-type: none">・3年国語（3の2教室）・3年算数（3の4教室）・4年算数（4の3教室）・5年国語（5の4教室）・5年外国語（イングリッシュルーム） | <ul style="list-style-type: none">● 授業 6校時（14:20～15:05）<ul style="list-style-type: none">・3年外国語活動（イングリッシュルーム）・4年国語（4の4教室）・4年社会（4の1教室）・5年算数（5の1教室）・5年理科（理科室1） |
|---|--|

[分科会会場] 分科会（15:15～16:30）

- ・国語分科会（多目的教室1）
- ・社会分科会（図工室1）
- ・算数分科会（多目的教室2）
- ・理科分科会（理科室1）
- ・外国語・外国語活動分科会（理科室2）

○実施上の留意事項

下記の通り、事前の準備を入念に行い、チームによる指導案検討ができるようにする。

月 日（曜）	内 容	備 考
1月25日（木）	教科チームメンバー決定	メールで連絡

1月26日(金)	教科チームメンバー顔合わせ, 役割分担, 日程確認	意見交換会後 12:00 頃 ~ (620)
1月29日(月) ~ 2月23日(金)	授業づくり (教科チームごとの計画に沿って) 教材研究, 指導案検討, 模擬授業等	
2月23日(金)	指導案提出	
2月26日(月)	附属小との事前打合せ, 秋田大授業提案者と顔合わせ 13:30~14:15 5校時授業参観 14:20~15:05 6校時授業参観 15:30~16:00頃 担任との情報交換	附属小 13:00 ~ (予定)
2月27日(火) ~ 3月 2日(金)	授業づくり (教科チームごとの計画に沿って) 指導案検討, 模擬授業, 分科会(事後検討会)の持ち方検討等	
3月 2日(金)	リサーチペーパー成果報告会	
3月 5日(月)	指導案提出 (最終), 印刷	
3月 7日(水)	最終打合せ会, 指導案配布	12:30 ~ (620)
3月 9日(金)	交流会当日	附属小 11:00 集合

○研修の評価方法、評価結果

分科会で意見交換を行い、成果の確認を行った。現職からは優れた授業、ストマスからチームの研究成果である授業が提供され、教職大学院の教科指導力の強化に極めて有効であるとの意見が多数示された。

○研修実施上の課題

六県の教職大学院の附属学校において持ち回りで授業研究会を実施することができるかどうか、課題である。

連携による研修についての考察

東北地区の教員育成指標を有効なものとして行く際には、初任層、ミドル層、ミドル後期の管理職直前世代等、あらゆる世代において、マネジメント力、教科指導(経営)力の双方における学びを充実させていくことが必要である。この点において、ストマスと現職院生から成る教職大学院に対する期待は大きいと言える。

本プログラム開発では、宮城教育大学が事務局となっている、教職高度化プラットフォーム会議を活用し、東北六県教育委員会と各教職大学院の連携・協働の土台づくりを目指した。これらを通じた連携・協働により、あらゆる世代の教員に求められていることと、世代に応じた期待と課題について、教育委員会、教職大学院、そして個々の教員が共通の認識に立つことができるようになりつつあり、「学び続ける教員」像に確立を導いている。

教職員支援機構の研修を活用することにより、教職大学院のマネジメント系の学習を充実させることが可能となってきたが、個別学術領域をそれぞれの背景にもつ教科の指導力向上について、さらなる検討が今後の大きな課題として残されている。(連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等)

その他

[キーワード]

教員育成指標 東北地区教職大学院 管理職直前世代 ミドルリーダー マネジメント
ネットワーク

[人数規模] D 51 位名以上名

[研修日数(回数)] D 11 日以上

【問い合わせ先】

国立大学法人 宮城教育大学 研究・連携推進課 研究協力係
〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 149
TEL 022-214-3708 MAIL kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp

[illegible]

各月で注意すべきリスク・トラバル

※様々なデ・タから各月にも散見されるリスク・トラバルをまとめたものです。年間通して危機意識をもっていきましょう。

スポーツ振興センター・タタ事故が多い月				種類別リスク大				学校によって時期が異なる				高校・中学校		小学校	
分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
学習活動の事故 休憩時間の事故	施設・設備	部活	部活	メール	メール	新人大会	学習発表会					施設・設備			
		他泊・校外学習				体育祭・運動会	施設・設備								
登下校の 事件・事故	登下校事故						不審者			登下校事故	登下校事故				
問題行動	学級づくり			問題行動	触法行為	問題行動			問題行動	問題行動	問題行動				
				触法行為	触法行為				触法行為	触法行為					
	登校しどろ	いじめ	いじめ				いじめ	いじめ							
	不登校	不登校				不登校				不登校					
健康				食中毒	食中毒	食中毒			インフルエンザ	インフルエンザ	インフルエンザ	インフルエンザ			
				熱中症	熱中症	熱中症				感染症胃腸炎	感染症胃腸炎	感染症胃腸炎			
災害			梅雨		雷	大雨				雷	雷				
教職員		メンタル		情報（通知表）		メンタル			飲酒運転			情報（通知表）			
							情報	情報	情報（通知表）	情報		情報（通知表）			
	4月は、	7・8・9月は					10・11月は					1・2・3月は、			
「おさえておきたい」 トラバル・リスク の要因	学校のリスクや雰囲気などに連動できない ために起こるリスク・トラバルが特徴的で す。 引き継ぎ事項を整理し、検討した内容を共 有しておくことが回連のポイントです。 5・6月は、 学校生活への慣れから起こる、人間関係が 出来上がりつつある所から起こる。また、 体育的行事が多いことから起こるリスク・ト ラバルが特徴的です。			夏季休業があり、学校から離れることから 起こる問題行動が特徴的です。更に休み明 けは不登校が起こりやすくなります。 また、気象状況により、雷や風水害に關 連するトラバル・リスクに注意が必要です。 休み前のケアと休み明けのケア、継続した 指導・支援が回連のカギとなります。 また、体育的行事もケアや体調管理等に要 注です。			多くの学校で行事があり、その活動におけ る生徒間のトラバルが起こります。適切な 対応をすることで人間関係づくりのチェン スになります。いじめや不登校につなが ることもあり要注です。 12月にかけて 成績の書写等を作成しなければならぬ時 期になります。情報管理に要注です。 また、感染症の流行の時期です。健康管理 や生徒の行動制限も回連のポイントになり ます。					気象状況により、凍結や大雪に關連した事故 に要注です。 また、引き継ぎ感染症に対する健康管理がポ イントです。 休みや年末年始もあり、生活のリスクの増れ や外部との接点の機会が多くなり、触法行為 などの問題行動が起こりやすい時期です。 いじめや不登校、発達障害に関する支援や指導が必要 です。			